

第4回看護人間工学会 学術集会報告

人間工学でつなぐ看護と多職種

今回は対面とオンラインのハイブリット開催でした。3年ぶりの対面開催で、会員や参加者同士の旧交を温める場面が多くみられました。看護人間工学に心を寄せる参加者は対面・オンライン併せて80名、活発な意見交換の中、盛会となりました。その様子の一部をご紹介します。

学術集会長：外村 昌子（森ノ宮医療大学 看護学部）
会期：2022年9月23日(金)9:30～16:00(9:00開場)
会場：森ノ宮医療大学 ハイブリット開催（対面・オンライン）
共催：森ノ宮医療大学

プログラム

【会長講演】 「多職種協働によるオンライン介護予防教室」

演者：外村 昌子（森ノ宮医療大学）
座長：西田 直子（京都先端技術大学）

【教育講演①】 「VRが拓く医療者教育の可能性」

演者：大西 英雄（森ノ宮医療大学 診療放射線学科）
西垣 孝行（森ノ宮医療大学 臨床工学科）
仲本 正美（森ノ宮医療大学 理学療法学科）
座長：村上 生美（森ノ宮医療大学 看護学科）

【教育講演②】 「気軽に実験しませんかpart③」 「看護技術における実験研究のひろがり」

対面・オンラインデモンストレーション

演者：徳重あつ子（武庫川女子大学）、工藤大祐（武庫川女子大学）
能登 裕子（九州大学）、伊部 亜希（敦賀市立看護大学）
水戸 優子（神奈川県立保健福祉大学）
野呂 影勇（早稲田大学・エルゴシーティング）
座長：箕浦 哲嗣（愛知県立大学）

【一般演題】 8演題

座長：樋之津淳子（札幌市立大学）、寺田美和子（森ノ宮医療大学）

【総会】



プログラム内容のご紹介

会長講演

「多職種協働によるオンライン介護予防教室」
大学周辺地域在住の高齢者にタブレットを使用した介護予防教室を実施しています。プログラムは医療大学の特色を生かした内容となり高齢者のICT使用の可能性について報告されました。



教育講演①

「VRが拓く医療者教育」
「量子放射線領域における VR 技術を用いた医療系学生の教育スキル Up の方策」
「医療学生向け VR 教材を持続的に生み出すビジネスモデルの検討」
「VR を用いたリハビリテーションの可能性」
各領域における領域における医療者教育への実践とその可能性についてお話しいただきました。



【教育講演②】

「気軽に実験しませんかpart③」
「看護技術における実験研究のひろがり」
徳重あつ子(武庫川女子大学)
「看護職者が行う実験研究とは」
工藤 大祐(武庫川女子大学)
「点眼時の点眼容器の押し出し力に関する研究」
能登 裕子(九州大学)
「看護動作における接触圧測定の実際と実験研究への可能性」
伊部 亜希(敦賀市立看護大学)
「要介護高齢者の睡眠調査」
水戸 優子(神奈川県立保健福祉大学)
「静脈採血トレーニング用 AR の開発と評価の取り組み」
野呂 影勇(早稲田大学・エルゴシーティング)
「学生演習から実験まで 使える音声ガイド 早稲田大学」
座長:箕浦 哲嗣(愛知県立大学)



第3回に引き続き生体データやARを用いた研究について発表いただきました。
今回は機器の展示や研究の実際をデモンストレーションしていただき、さらにバージョンアップした内容となりました。

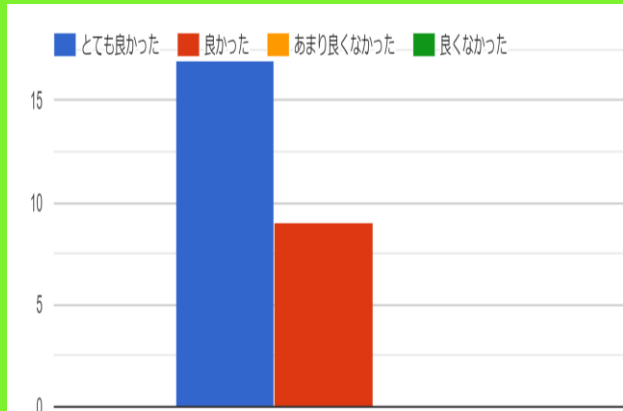
【一般演題】8題

「影アバタを重畳合成したりフレクション機能を有する看護コミュニケーション教育支援システムの開発」
「ICTを活用した認知症カフェボランティア養成 第1回試行調査に基づく有効性の検討」
「幼児後期・学童前期の子どもの採血・予防接種時のディストラクションに対する ヒューマノイドロボットの適用の検討」
「胃の解剖学教材ペーパーのクラフトの開発」
「携帯型姿勢計測器を用いた看護学生への腰痛予防教育の試み」
「腰部負担計測用スマートデバイスおよび体位変換用シート「ラクラックス」によるベッドからストレッチャーへの移乗支援効果」
「神経難病患者と人間工学利用 -Correspondence 分析を用いて-」
「脈拍測定時の看護師の手の皮膚温と患者の被接触部位における皮膚温の変化と主観」
ARやICT,ロボットなど人間工学を多角的に捉えた多彩な発表により、さらに研究の視野が

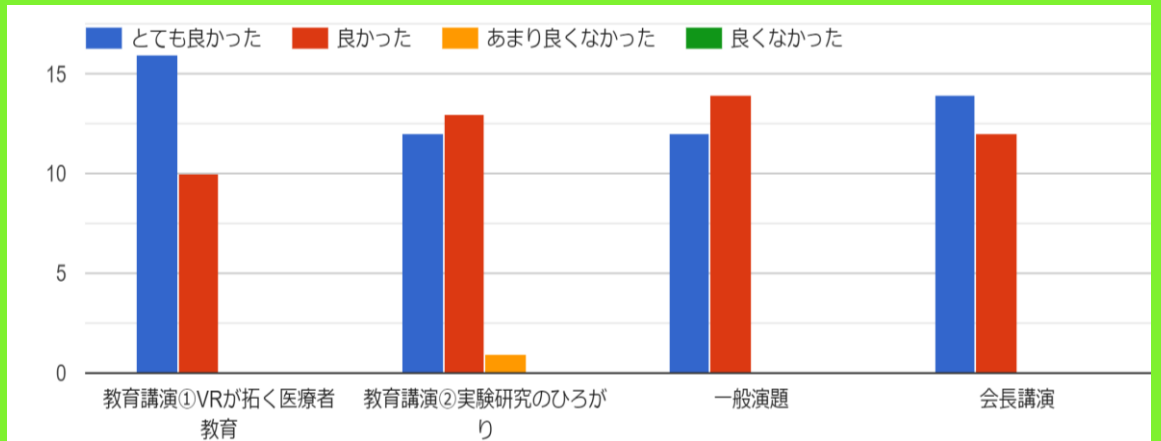


アンケートの集計結果

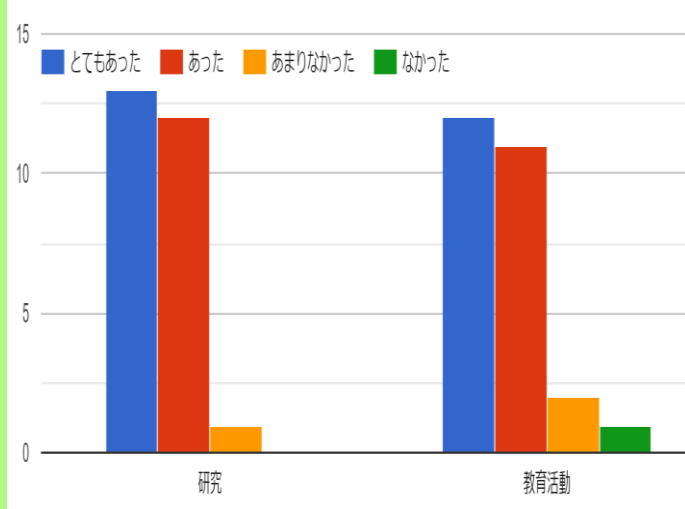
学会の感想



各プログラムの感想



研究や教育活動に役立つ部分がありましたか。



- ・「役に立ちそう」とは違いますが、実験研究をしたくなった。
- ・看護に限らず様々な職種で一緒に作る事の大切さ、それをいかして看護教育や研究をしたい。研究にもっと時間を割かないといけないなと戒めになった
- ・時代に合った教育方法の工夫について考えた。演習の方法についてリアリティを出すのに参考になった
- ・次の研究のイメージーションをいただいた。
- ・ボディメカニクス教育の効果
- ・実験研究の考え方と臨地実ヒューマノイドロボットの適用は臨地実習の事前習、仮想空間、看護教育方法、学修方略の評価。他領域の先生方と共同研究する手法などICTやVR、VAを活用した学生指導や患者教育など。
- ・VR等の映像技術を用いた看護技術の練習や患者さんへの情報提供。
- ・実験研究の方法について。
- ・独居の高齢者が多い中、地域で介護予防に取り組み、様々な活動をしていく必要があると思いました。
- ・高齢者のITを活用するために必要な支援、社会活動への展開。

【学会全体についての意見・感想】

- ・ハイブリッド開催良かったと思います。音声はやや聞き取れない部分がありましたが良かったです。
- ・コロナ禍のせいもあるためなんとも言えないが、ARを参加者全員が体験できるような環境が欲しかった
- ・コロナ禍の後オンラインでも開催して欲しい、準備等大変な部分もあると思うが、オンラインの併用は現地よりも気軽に参加できて良い。
- ・今回の教育講演は、オンラインでもデモがよく見えるようにカメラワークを工夫されよかったです。やはり現地で直接みなさんと交流したかった
- ・準備されたお弁当や、スタッフの方々の対応はとても良かったです。学会名の入ったお饅頭にも驚きました。細やかなお心遣いが感じられる学会であった。
- ・ご発表なさる先生方がみなさんイキイキと楽しそうにされているのが印象的でした。
- ・コロナ渦となり今回含めオンライン参加の学会は増えたが、やはり現地に出向いての参加が好ましい。特にマスクをしながらの発表はオンラインで聞き取りにくいことも多々ある。うまい運営方法を模索したいところです。これこそ人間工学的な考察が必要です。
- ・楽しく研究についてヒントを得ることができた。
- ・他の医療者の取り組みから看護はなにができるかあらためて、考えさせられた。
- ・学会の実行委員会の方々のきめ細かでスムーズな学会運営に感謝しています。
- ・ハイブリット開催のおかげで、家庭の事情等で開催地まで行けなくとも最新の知見に触れる機会ができ、とても助かりました。また、映像や音声の乱れもなく、とても参加しやすかったです。開催の準備から、当日の実施まで、本当に大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・大変素晴らしい学術集会でした。ありがとうございました。
- ・Zoom参加だったため、会場からの質問内容や、演習室でのご発表の音声が聞こえないことがありました。ハイブリット開催は音声の問題等色々ご苦勞があったかと思います。お疲れさまでした。
- ・今後の研究への取り組みになるヒントをこの学会を通していただき、充実した時間でした。

貴重なご意見をありがとうございました。2023年にお会いできることを楽しみにしています。
第5回学術集会長は中島香緒里先生（日本赤十字豊田大学）です。（看護人間工学会、広報渉外委員会）